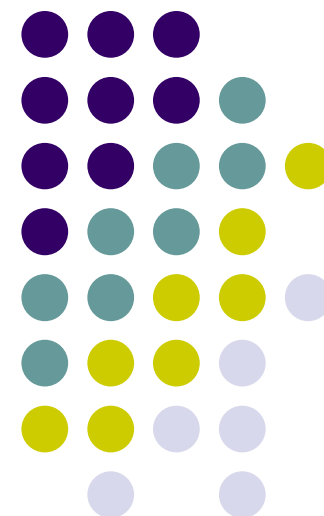
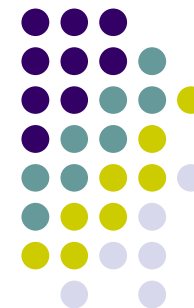


大阪府内の資金需要動向と 金融機関の貸出スタンス —— 2025年2月アンケート調査結果 ——

2025年3月13日



一般社団法人 大阪銀行協会
Osaka Bankers Association



- ✓ 本資料の内容について、商用目的での転載・複製を行う場合は予め大阪銀行協会までご相談ください。転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。
- ✓ 本資料に掲載されている情報の正確性については万全を期しておりますが、大阪銀行協会は、利用者が本資料の情報をを用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

【本資料に関する照会先】

大阪銀行協会調査部 (daiginkyo-chousa@oba.or.jp)

(要旨)

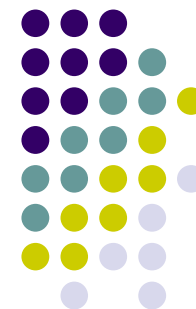
- 大阪府内に営業拠点を有する金融機関では、企業の資金需要について、6割方の先が足許から先行きにかけて前年同期対比で「増加」または「幾分増加」との見方にあり、**当面、府内企業の資金需要は増加基調を続ける**ものとみられる。
 - 資金需要増加の要因として、「売上の増加」、「設備投資の増強」、「M&A・新規事業進出など事業規模拡大」を指摘する先が多く、企業サイドでは業況改善のもとで前向きな投資が広がっている状況が窺われる。
- 一方、個人や地公体の資金需要に関しては、大方の金融機関で、足許から先行きにかけて前年同期対比「同水準」との見方にある。
 - ただし、足許、住宅ローンを中心に個人の資金ニーズが幾分高まっている可能性。
- このような需資動向のもとでの金融機関の**貸出スタンスは、企業向けでは、足許、先行きとも多くの先が利鞘確保を重視**すると回答しており、全体としては資金需要が増加基調を辿る中でも、貸出のボリューム拡大よりも採算性を重視する姿勢にある模様。
 - 利鞘確保を重視する要因としては、「自行庫の収益増強を企図」や「経済環境の好転」が挙げられている。
 - 他方で、足許に限ってみると、残高増強を重視すると回答している先が幾分増加。
- また、企業向け貸出での金利設定スタンスをみても、前年の同時期に比べ「引き上げ方向」と回答している先は、足許の8割強から先行き9割弱に一段と増加しており、**今後、殆どの先で金利の引き上げを図っていく方針**にある。
- この間、個人向けの貸出スタンスは、残高増強を重視する先と利鞘確保を重視する先が概ね同数となっており、対応が二分化。また、地公体向けは、大方の先が利鞘確保を重視するスタンスにある。





(はじめに)

- 大阪銀行協会では、大阪府内における資金需要の動向と各行庫の貸出スタンスについて、同府内に営業拠点および預貸取引を有する金融機関75先（以下、「調査先」という）を対象としたアンケート調査を、昨年2月に引き続き実施した。本ペーパーは、同調査の結果を取り纏めたもの。
- ✓ 具体的な調査先は、大阪府内に営業拠点および預貸取引を有する銀行55先、信用金庫10先、信用組合10先の計75先。
- ✓ アンケート実施期間は、2025年2月4日～2月25日まで。回収率は100%。
- ✓ なお、調査先の銀行に関して、本資料記載の業態別の内訳は、大手行は、みずほ、三菱UFJ、三井住友、りそな、みずほ信託、三井住友信託、SBI新生、あおぞらの8先、地域銀行は、地方銀行37先と第二地方銀行10先の計47先。



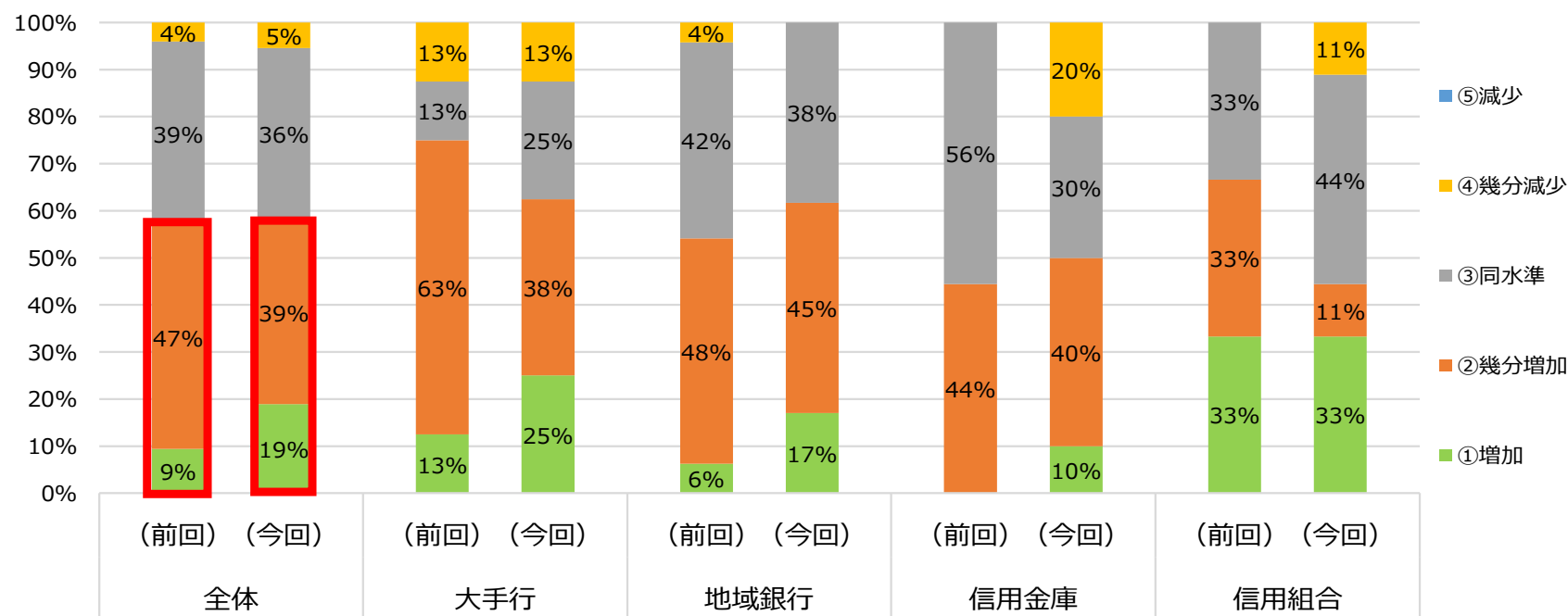
I. 資金需要動向

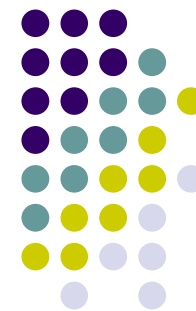
1. 足許の状況

(1-1) 企業の資金需要動向

- 年度末までの大阪府内所在の企業の資金需要について、調査先では、前年同期対比で「増加」または「幾分増加」とみる先が6割弱と過半を占めており、府内企業の資金需要は前回調査時（2024年2月）以降の増加基調が続いているとの見方が大勢。
- 業態別には、地域銀行と信用金庫で「増加」または「幾分増加」と回答している先が前回調査時よりも増加しており、こうした業態の取引先の中心となっている中堅・中小企業で資金需要が高まっている可能性。

▽ 年度末までの企業における資金需要の前年同期対比の見方





I. 資金需要動向

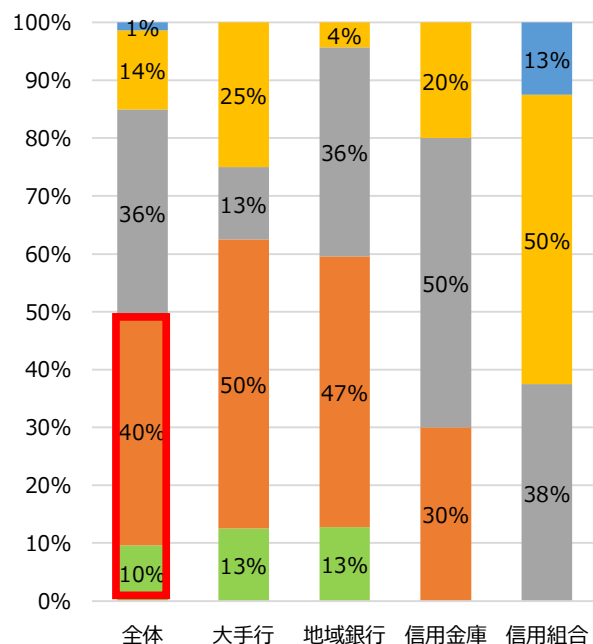
1. 足許の状況

(1-2) 業種別の動向

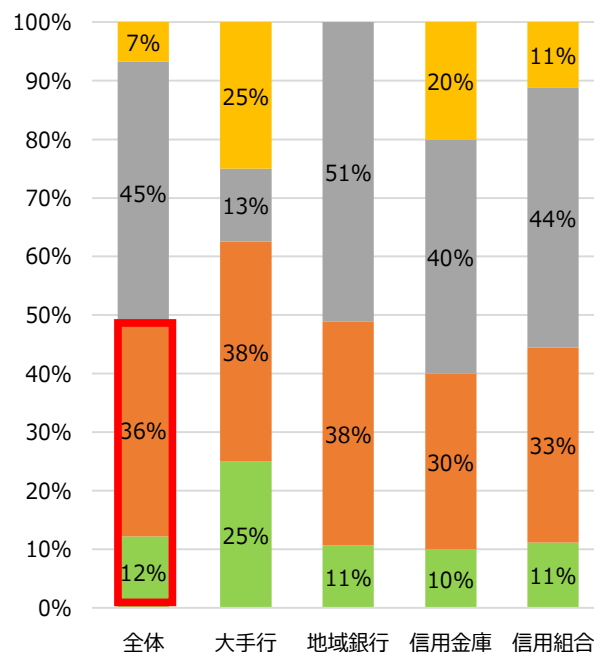
- 業種別にみると、製造業、非製造業とも調査先の5割方が「増加」または「幾分増加」と回答しており、業種間で大きな差はみられない。
 - ― ただし、製造業は信用金庫や信用組合で「増加」と回答している先が皆無となっており、企業規模の小さい先で資金需要が相対的に減退している可能性。
 - ― また、非製造業のうち、建設・不動産業で「増加」または「幾分増加」と回答した先は6割弱と、非製造業全体の割合よりも高く、資金需要が相対的に強い模様。

▽ 年度末までの業種別資金需要の前年同期対比の見方

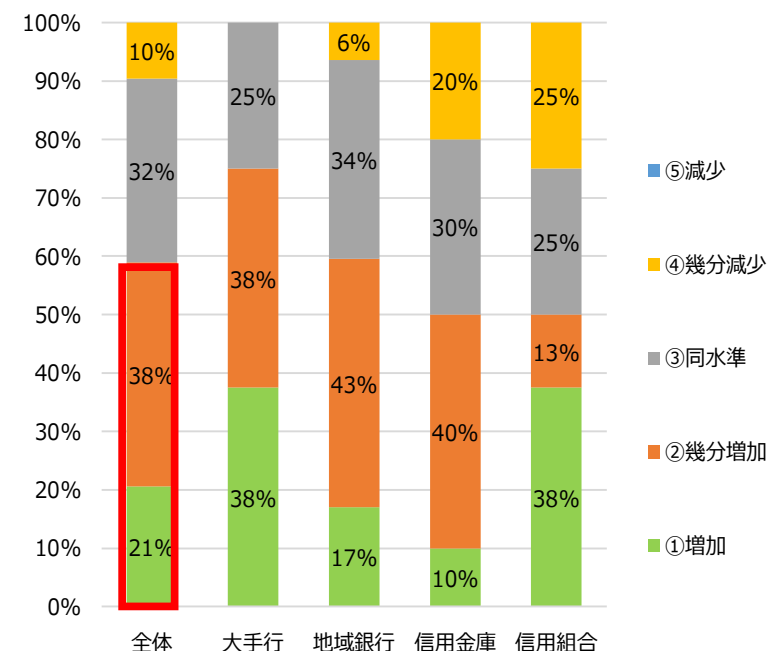
(製造業)



(非製造業)



(建設・不動産業)



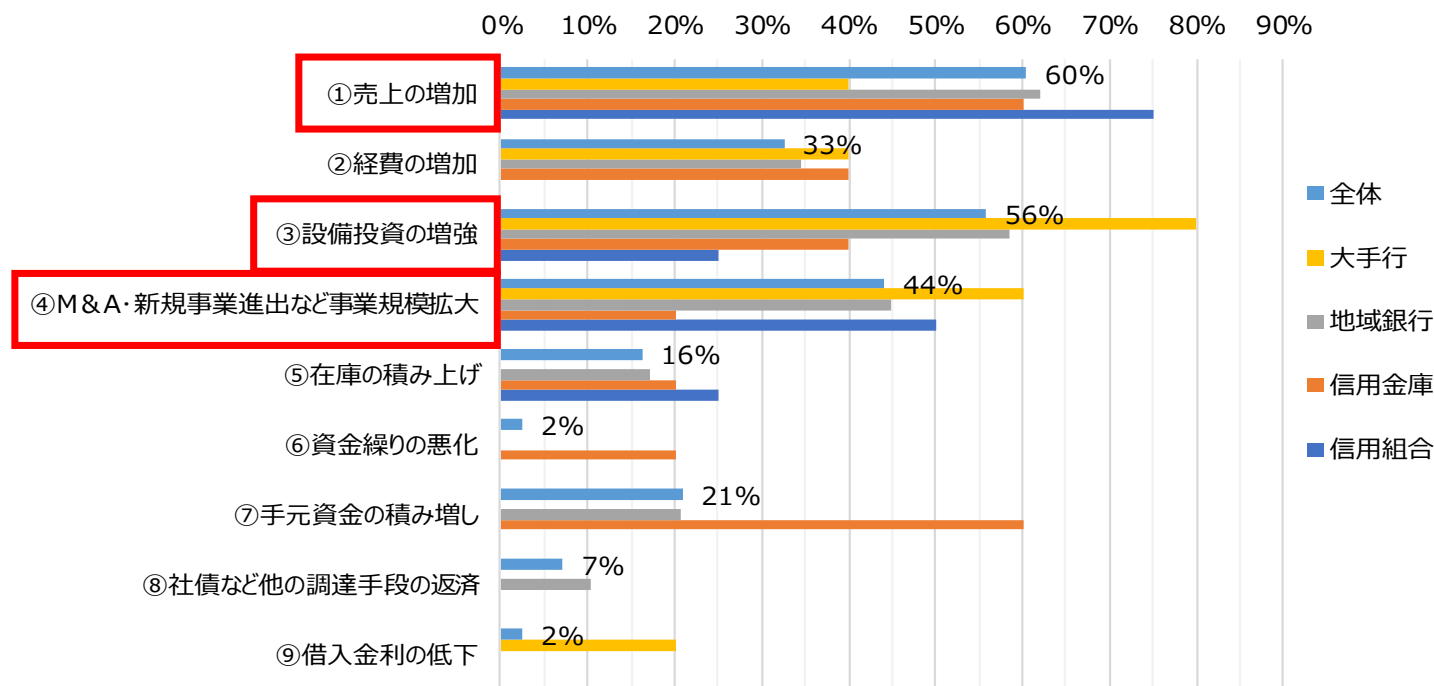
I. 資金需要動向

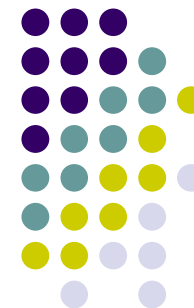
1. 足許の状況

(1-3) 資金需要増加の要因

- 資金需要が「増加」または「幾分増加」と回答した調査先では、その要因として、6割の先が「売上の増加」、次いで「設備投資の増強」、「M&A・新規事業進出など事業規模拡大」を指摘。
- 業態別には、大手行では多くの先が「設備投資の増強」や「M&A・新規事業進出など事業規模拡大」を挙げており、比較的規模の大きい企業で前向きな投資が広がっている様子が窺われる。この間、信用金庫では、「売上の増加」とする先が多い一方、「手元資金の積み増し」を指摘する先も多く、規模の小さい企業では業況が二極化しつつある可能性。

▽ 年度末までの企業の資金需要の増加要因（複数回答可）





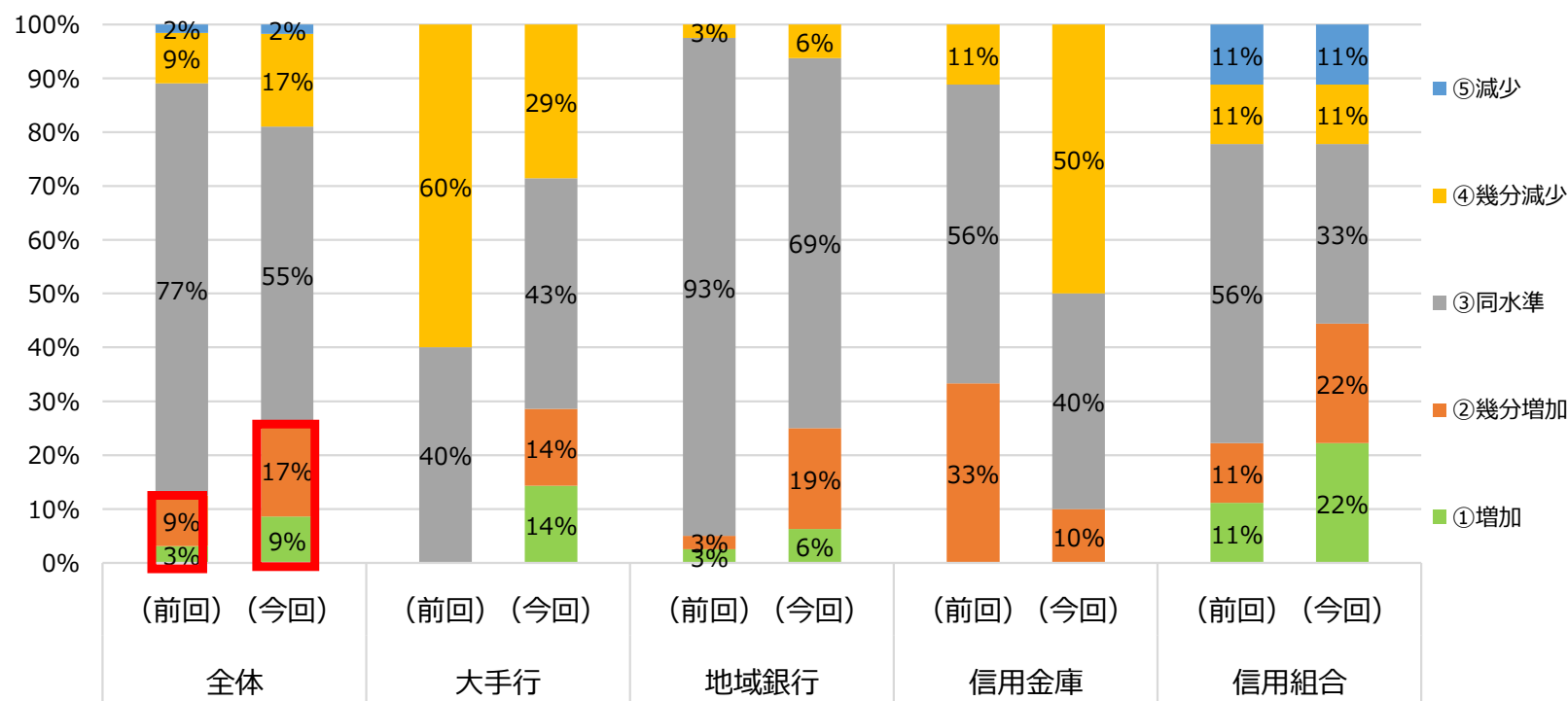
I. 資金需要動向

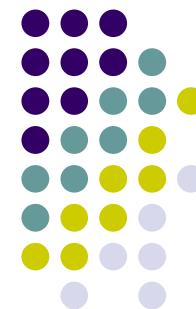
1. 足許の状況

(2-1) 個人の資金需要動向

- 年度末までの個人の資金需要については、調査先の6割弱が前年同期対比「同水準」と回答しているが、「増加」または「幾分増加」とみる先が3割弱と前回調査時よりも増加しており、足許で個人の資金ニーズが幾分高まっている可能性。
- 業態別にみても、信用金庫以外の業態で「増加」もしくは「幾分増加」と回答している先が前回調査対比で増加。

▽ 年度末までの個人における資金需要の前年同期対比の見方





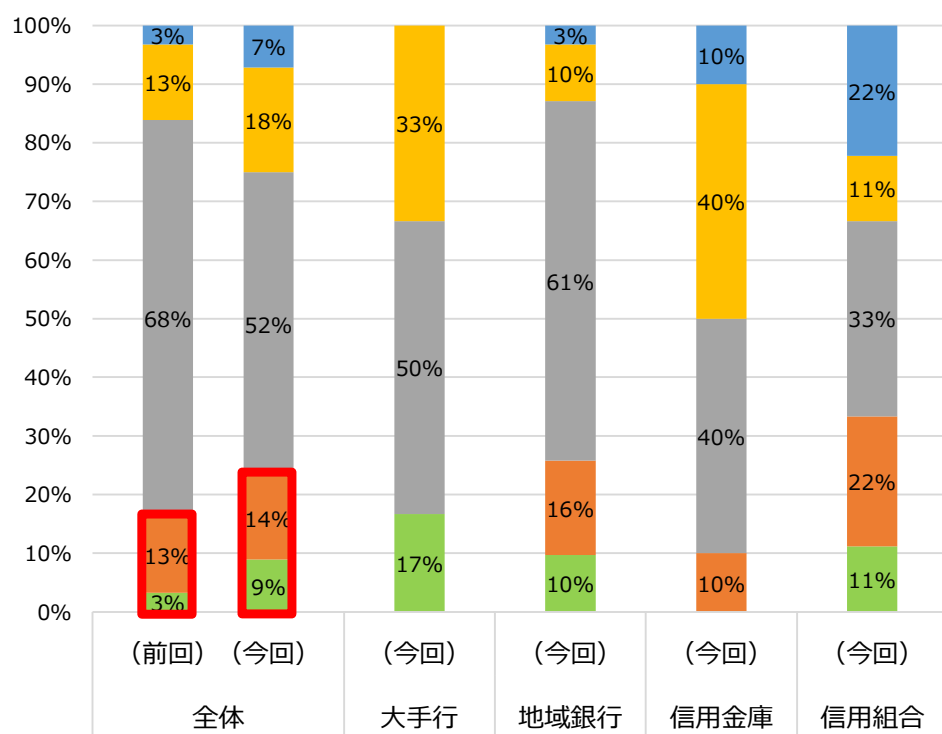
I. 資金需要動向

1. 足許の状況

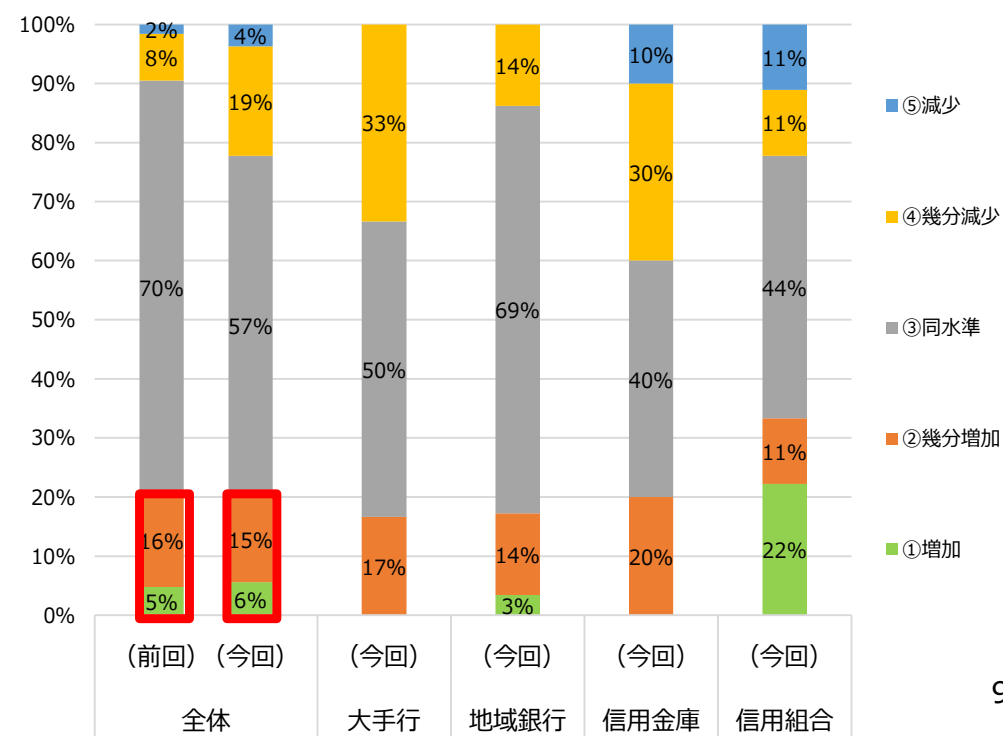
(2-2) 使途別の動向

- 使途別にみると、住宅ローン、消費者ローンとも、前年同期対比「同水準」とみる先が過半を占めるなかで、住宅ローンに関しては、「増加」または「幾分増加」と回答している先が前回調査時よりも幾分増加。
 — 一方、消費者ローンでは「増加」または「幾分増加」と回答している先は前回調査時と同水準。
- ただし、住宅ローンについては、信用金庫では「幾分減少」または「減少」と回答した先が5割に上っており、慎重な見方が目立つ。

▽ 年度末までの住宅ローンの前年同期対比の見方



▽ 年度末までの消費者ローンの前年同期対比の見方





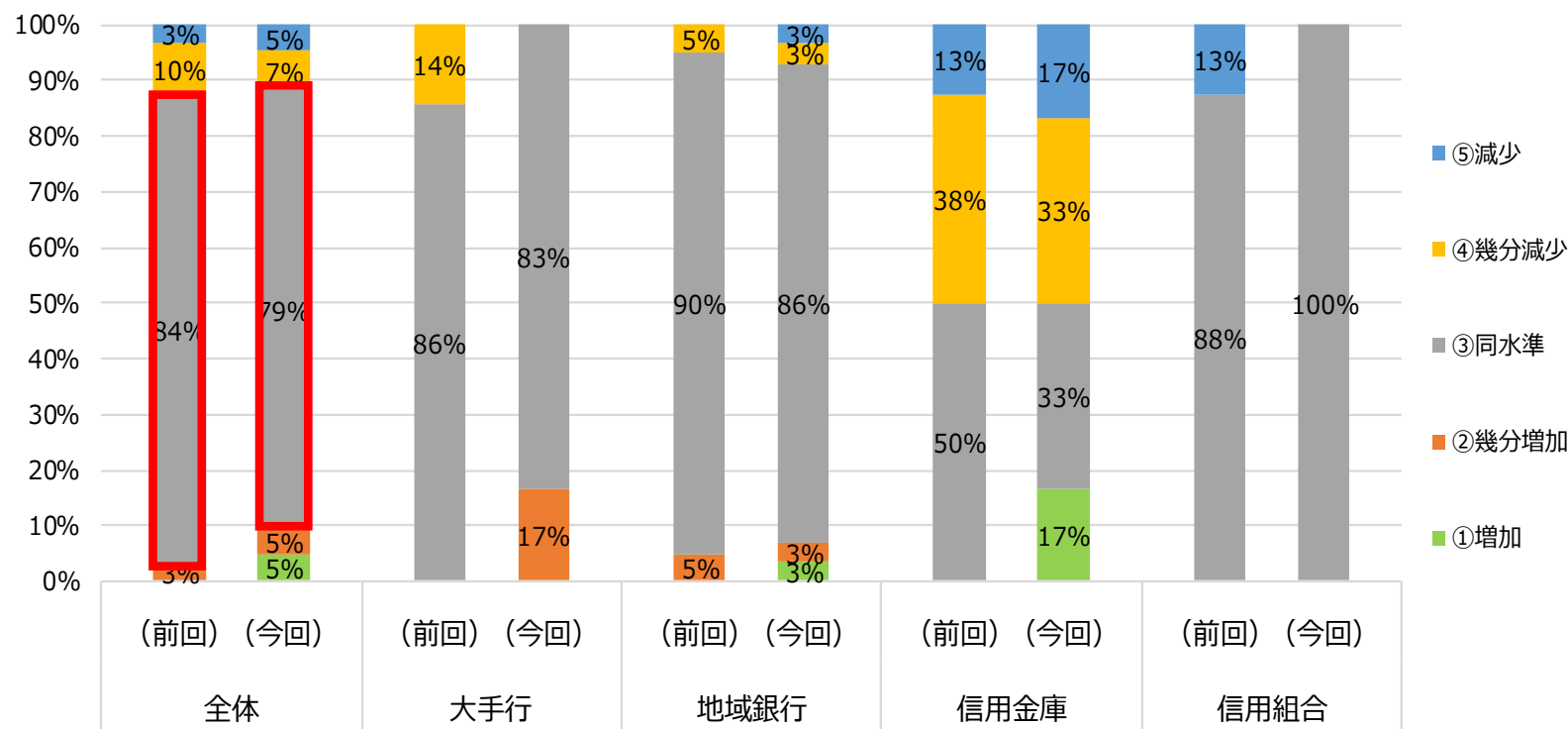
I. 資金需要動向

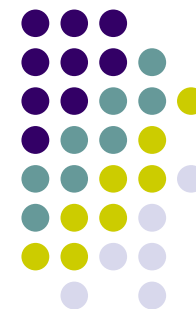
1. 足許の状況

(3) 地公体の資金需要動向

- 年度末までの地公体の資金需要については、8割方の調査先で前年同期対比「同水準」とみており、前回調査時と大きな変化は窺われない。
- 業態別には、前回調査時同様、信用金庫で5割の先が「幾分減少」または「減少」と回答しており、慎重な見方。

▽ 年度末までの地公体における資金需要の前年同期対比の見方





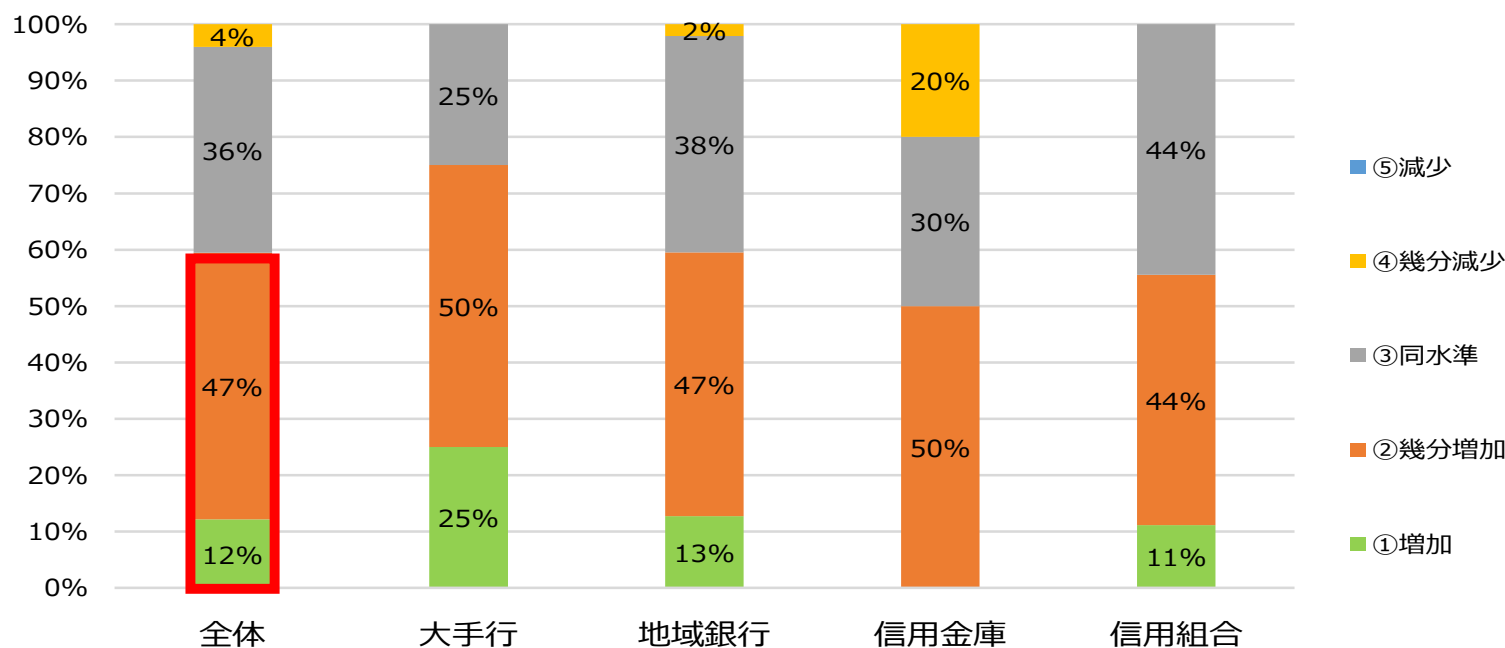
I. 資金需要動向

2. 先行きの見通し

(1) 企業の資金需要動向

- 2025年度入り後の府内企業における資金需要については、年度末までの見方同様、6割方の調査先が前年同期対比で「増加」または「幾分増加」と回答しており、4月以降も企業の資金需要は増加基調を維持するとの見方。
- 業態別には、特に大手行で「増加」または「幾分増加」と回答している先が8割弱に上っており、規模の比較的大きい企業で資金需要が見込まれている模様。

▽ 2025年度入り後の企業における資金需要の前年同期対比の見方





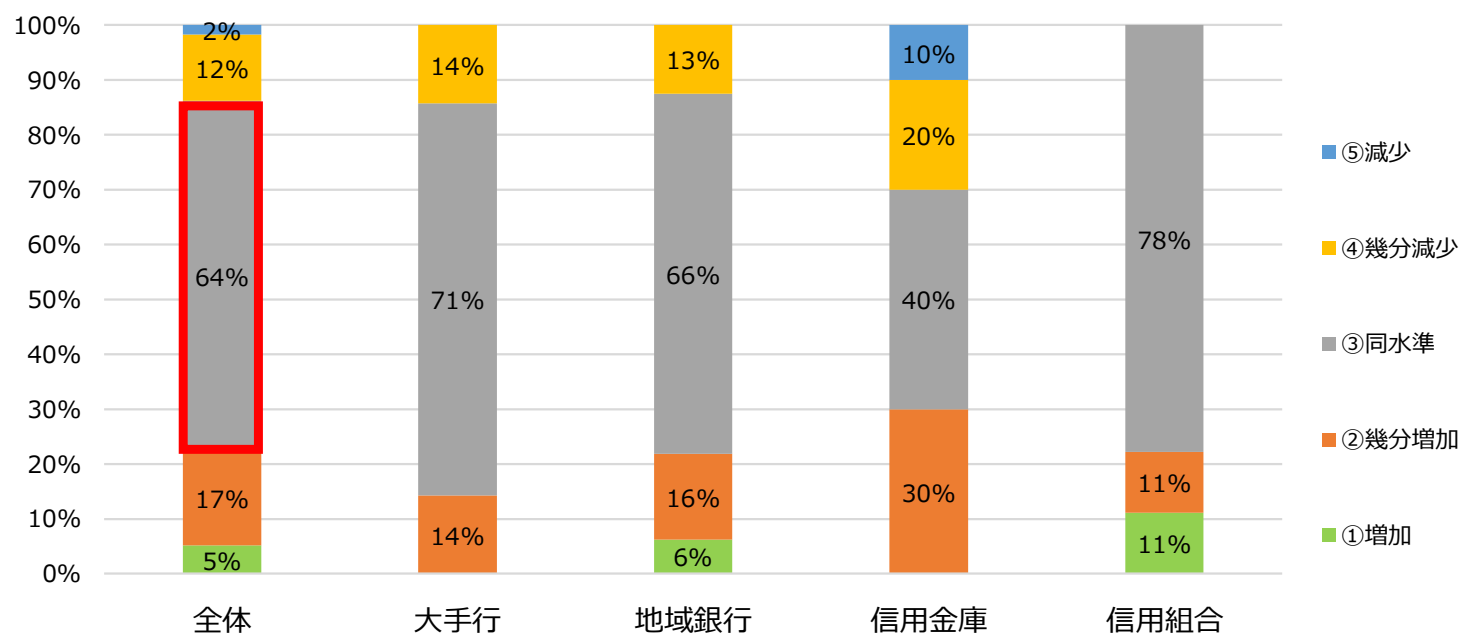
I. 資金需要動向

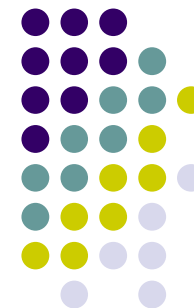
2. 先行きの見通し

(2) 個人の資金需要動向

- 2025年度入り後の個人の資金需要は、6割強の調査先で前年同期対比「同水準」と回答しており、一部に窺われる年度末までの資金ニーズの高まりが先行き広がる様子はみられていない。
- 業態別にみても、足許では増加していた「増加」または「幾分増加」と回答した先は、信用金庫で3割とやや高めとなっているが、その他の業態は何れも限定的。

▽ 2025年度入り後の個人における資金需要の前年同期対比の見方





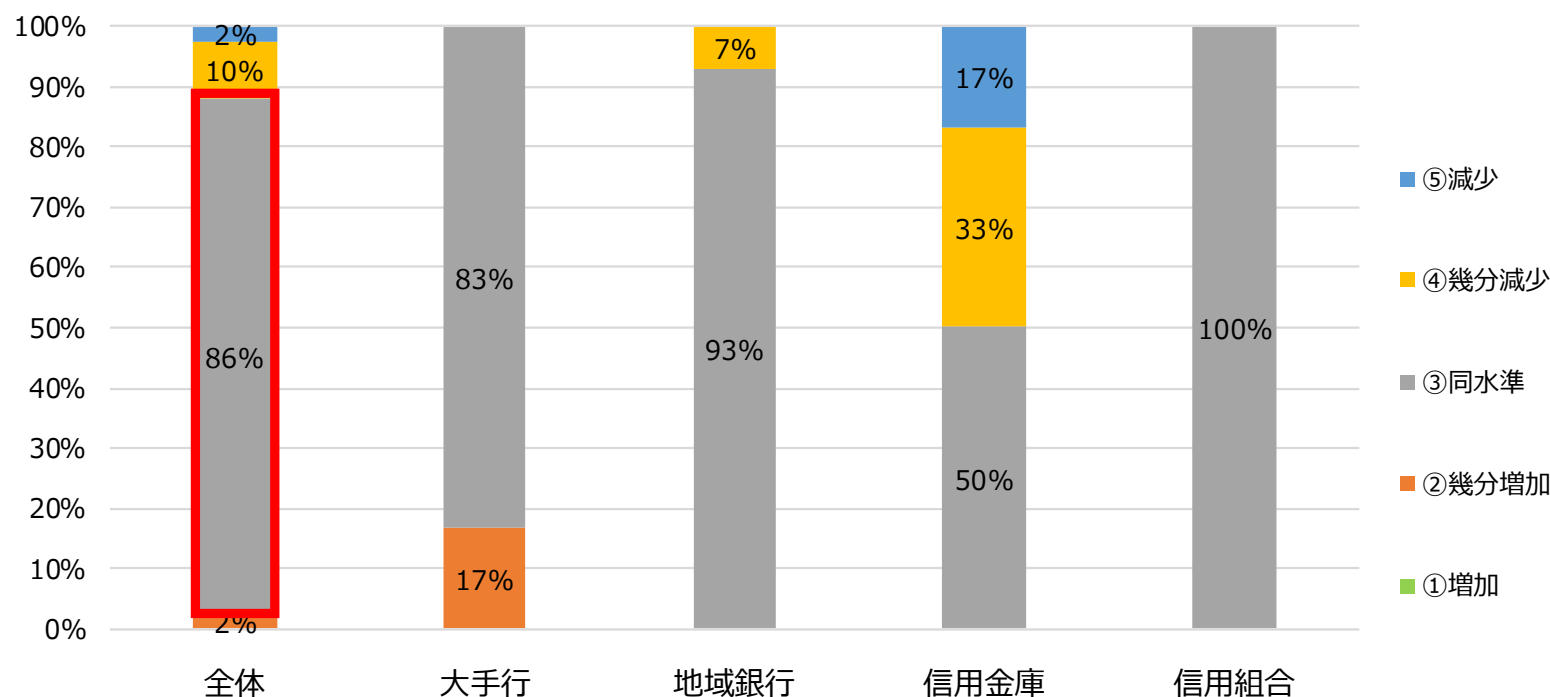
I. 資金需要動向

2. 先行きの見通し

(3) 地公体の資金需要動向

- 2025年度入り後の地公体の資金需要は、9割弱の調査先で、前年同期対比「同水準」と回答しており、年度末までと同様の動きが続くとの見方が大勢。
- 業態別では、信用金庫で5割の先が「幾分減少」または「減少」と回答している点が目立つ。

▽ 2025年度入り後の地公体における資金需要の前年同期対比の見方



Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

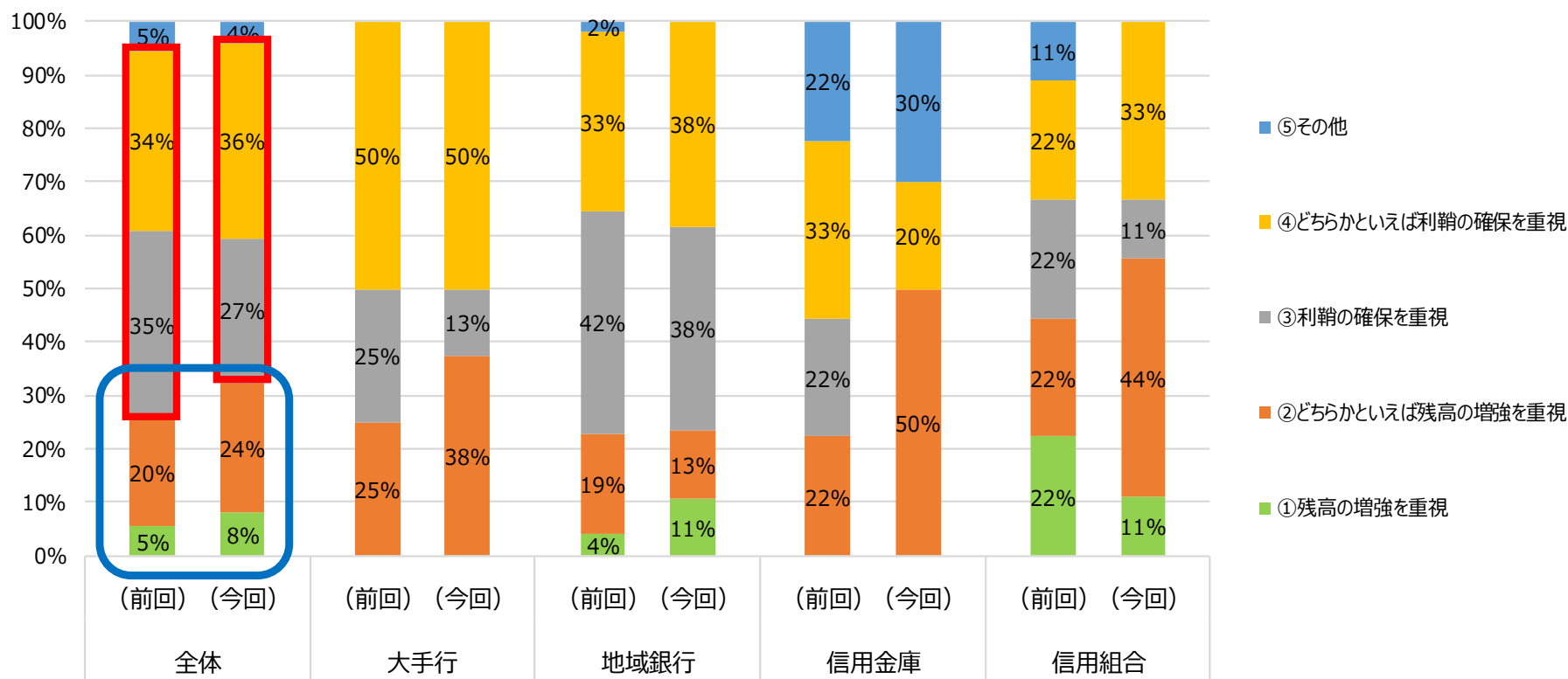
1. 足許のスタンス

(1-1) 企業向け貸出

- 足許の企業向け貸出のスタンスについて、調査先のうち6割強の先で、「利鞘の確保」または「どちらかといえば利鞘の確保」を重視すると回答。

— ただし、前回調査時との比較では、「残高の増加」または「どちらかといえば残高の増強」を重視する先が幾分増加。業態別には、大手行、信用金庫、信用組合で、「残高の増加」または「どちらかといえば残高の増強」を重視すると回答している先が前回調査時よりも明確に増加している。

▽ 足許の企業向け貸出のスタンス





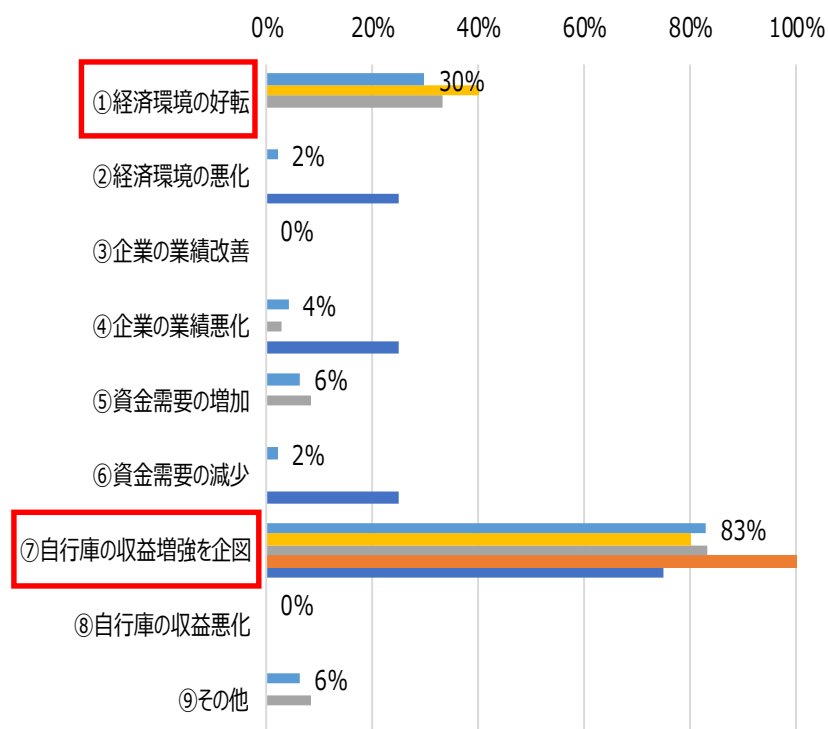
Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

1. 足許のスタンス

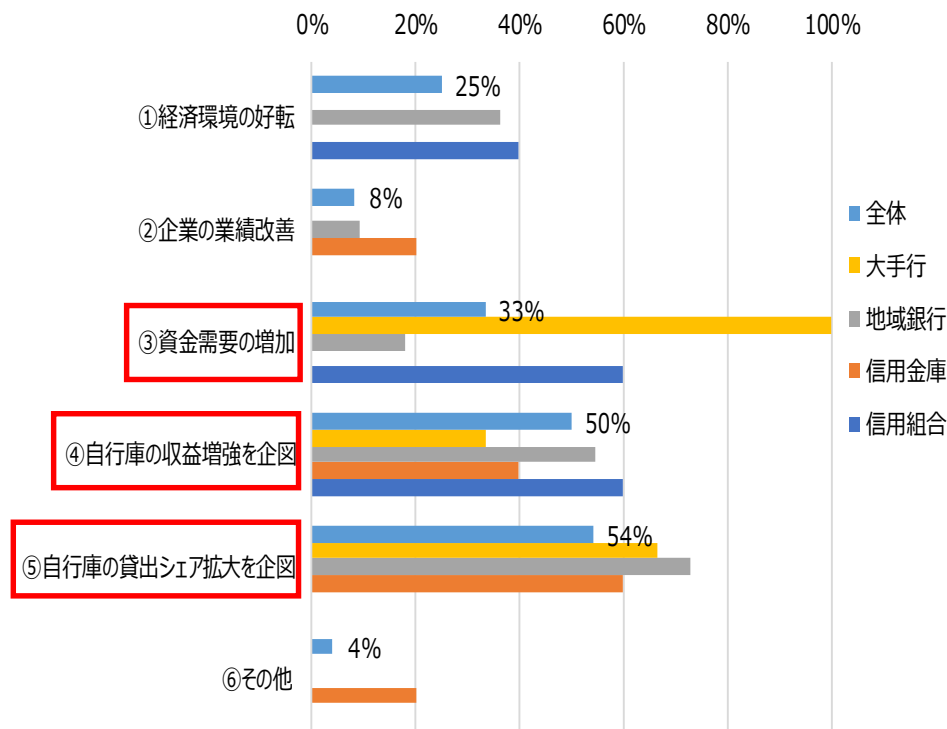
(1-2) 利鞘確保重視の要因

- 足許の企業向け貸出で利鞘確保を重視する要因として、8割強の調査先が「自行車庫の収益増強を企図」を挙げているほか、3割の先が「経済環境の好転」と回答。
 - ― 他方、残高の増強を重視する先では、「自行車庫の貸出シェア拡大を企図」や「自行車庫の収益増強を企図」、「資金需要の増加」と回答している先が多い。

▽ 足許の貸出運営スタンスを「利鞘の確保を重視」ないし「どちらかといえば利鞘の確保を重視」とする理由
(複数回答可)



▽ 足許の貸出運営スタンスを「残高の増強を重視」ないし「どちらかといえば残高の増強を重視」とする理由
(複数回答可)





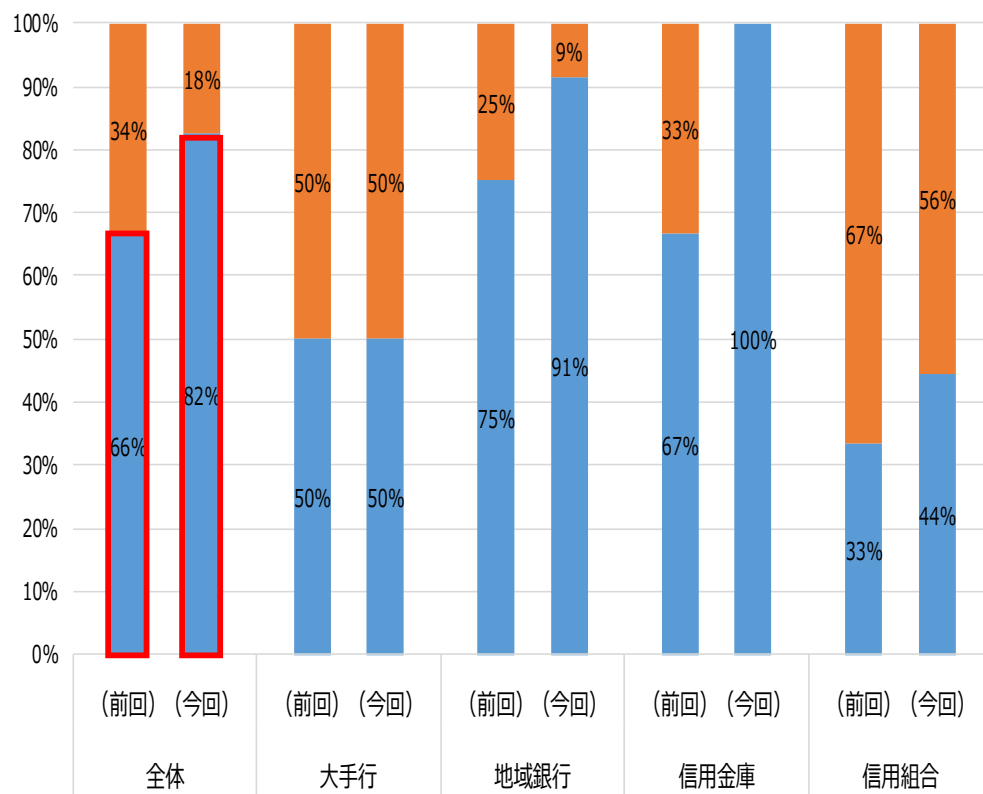
Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

1. 足許のスタンス

(1-3) 金利設定スタンス

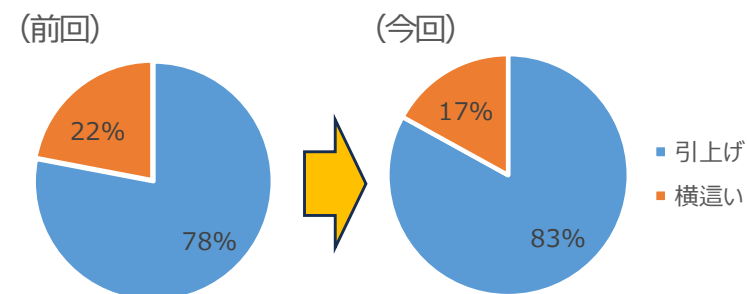
- 足許の企業向け貸出での金利設定スタンスに関しては、前年の同時期に比べ「引き上げ方向」と回答している先が8割強に上っており、前回調査時点よりも増加。
 - ― 貸出スタンスとの関係を見ると、「引き上げ方向」のスタンスにある先は、利鞘確保重視の先では前回調査時同様の8割強を占めているほか、残高増強重視の先でも前回調査時の4割弱から8割方に大幅に増加。

▽ 足許の企業向け貸出の金利設定スタンス（前年同期対比）

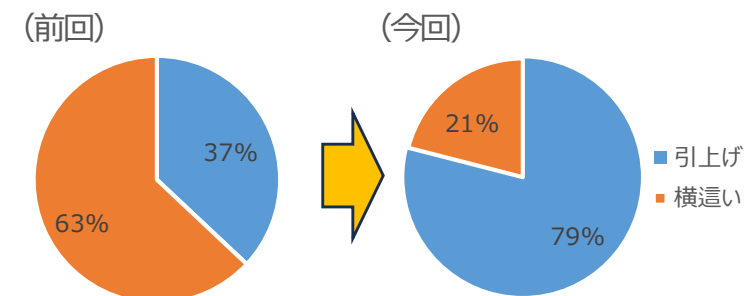


▽ 貸出スタンスと金利設定スタンスの関係

① 利鞘確保重視の先



② 残高増強重視の先



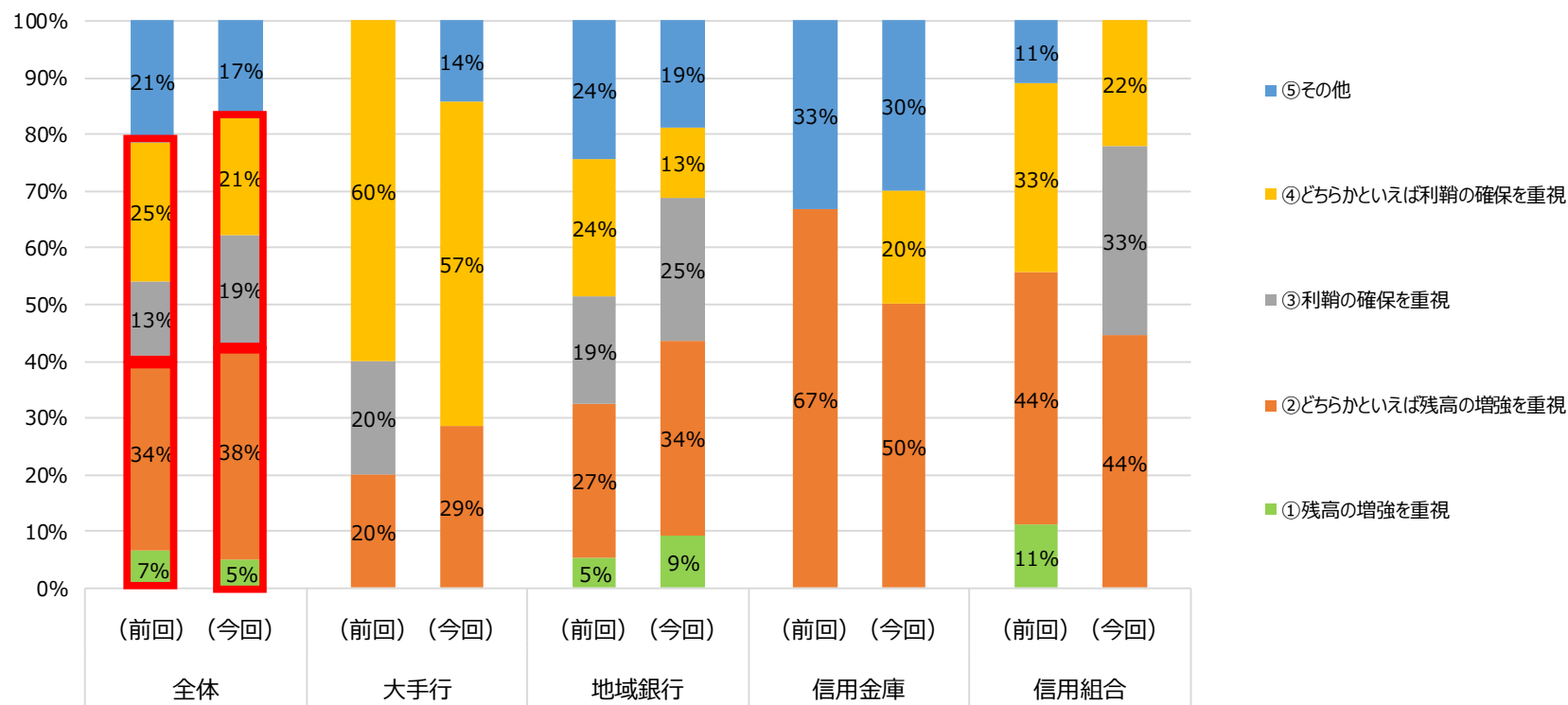
Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

1. 足許のスタンス

(2) 個人向け貸出

- 足許の個人向け貸出スタンスについて、「残高の増強」または「どちらかといえば残高の増強」を重視と回答している先と、「利鞘の確保」または「どちらかといえば利鞘の確保」を重視と回答する先が概ね同数となっており、調査先の姿勢は二分化。
 - ― 業態別には、大手行で利鞘確保重視の先が全体の6割弱を占めている一方、その他の業態では4割強から5割の先が残高増強重視と回答。

▽ 足許の個人向け貸出のスタンス



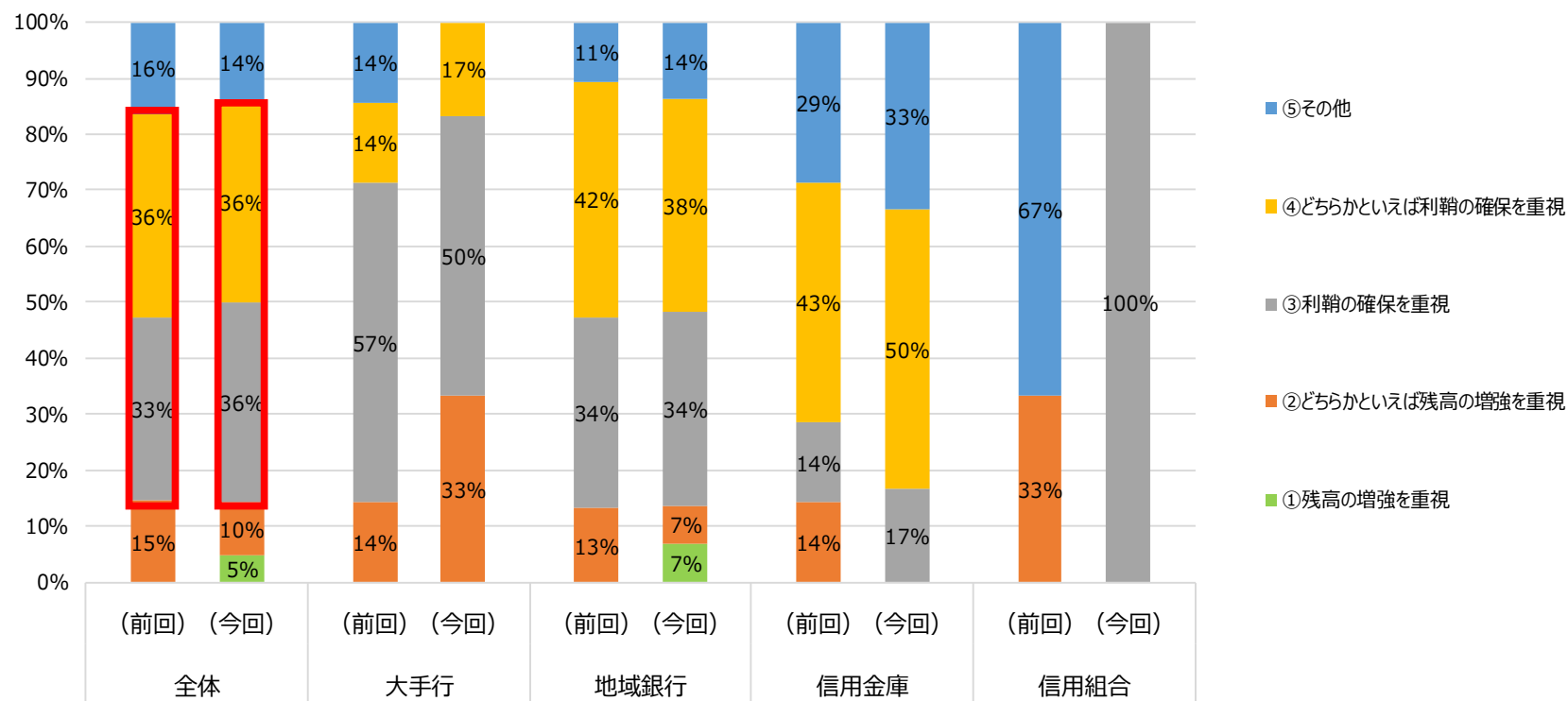
Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

1. 足許のスタンス

(3) 地公体向け貸出

- 足許の地公体向け貸出スタンスに関しては、「利鞘の確保」または「どちらかといえば利鞘の確保」を重視すると回答している調査先が7割方を占めている。
 - ― 業態別では、大手行で3割強の先が「どちらかといえば残高の増強」を重視すると回答している点が目立つ。

▽ 足許の地公体向け貸出のスタンス



Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

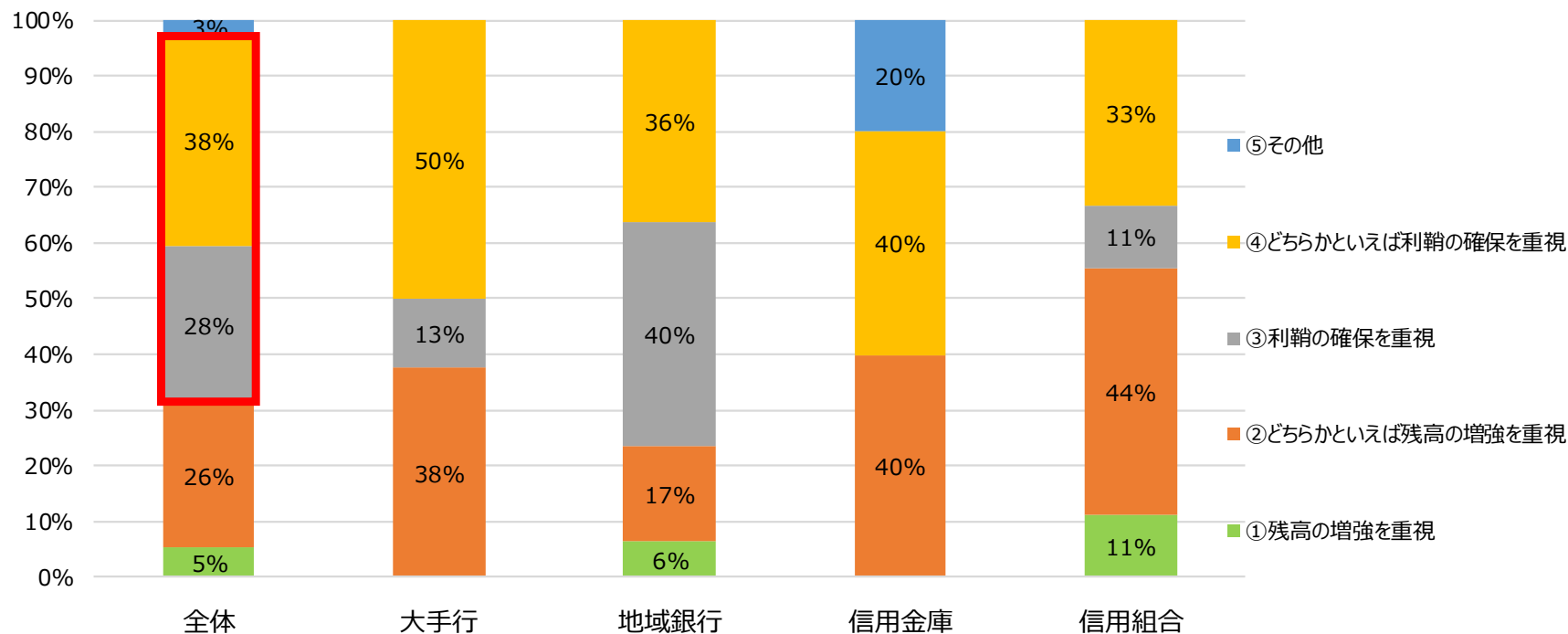
2. 先行きのスタンス

(1-1) 企業向け貸出

- 2025年度入り後の企業向け貸出のスタンスに関しては、7割弱の先が「利鞘の確保」または「どちらかといえば利鞘の確保」を重視すると回答しており、先行きについても、足許同様、多くの先で採算性を優先する姿勢を継続する方針にあることが窺われる。

— 足許では幾分増加していた残高増強を重視する先は、先行きでもこれまで同様の3割方の水準が続く形となっており、広がる様子はみられない。

▽ 2025年度入り後の企業向け貸出のスタンス



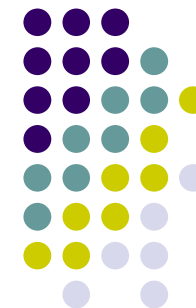
Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

2. 先行きのスタンス

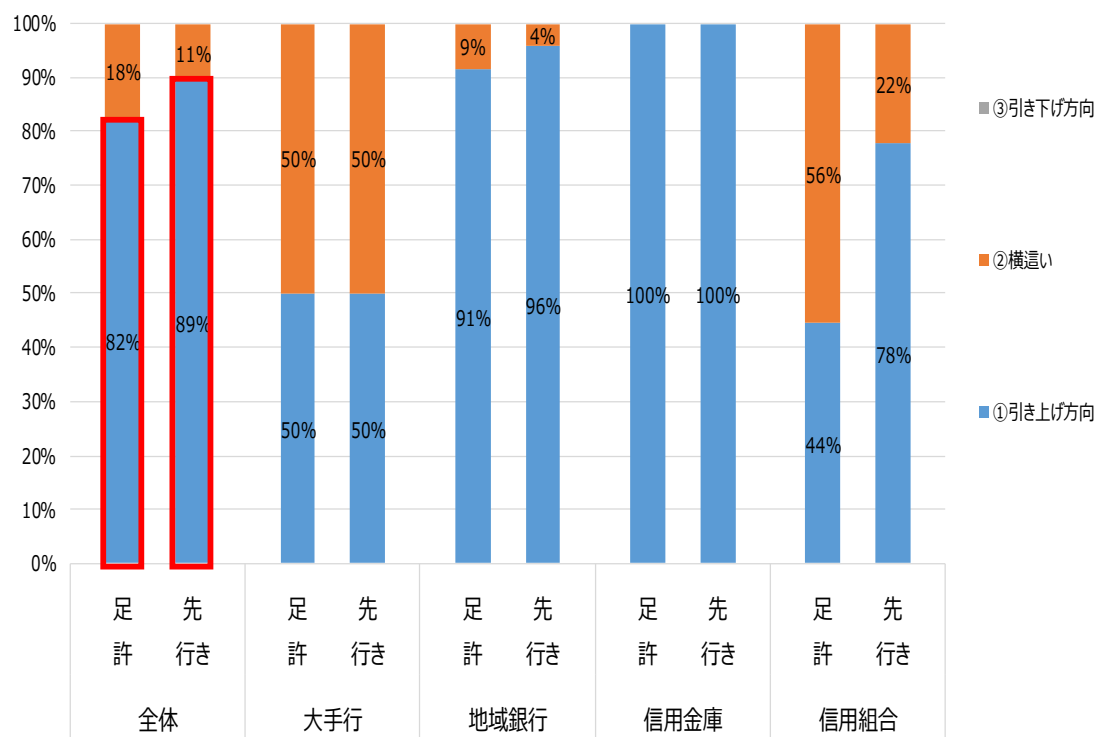
(1-2) 金利設定スタンス

- 2025年度入り後の企業向け貸出での金利設定スタンスについては、9割弱の調査先で前年の同時期に比べ「引き上げ方向」と回答しており、今後、殆どの調査先で金利の引き上げを図っていく方針にある。

- ― 業態別には、大手行で「横這い」とする先が5割となっているのが特徴的。
- ― また、貸出スタンスとの関係を見ると、先行き「引き上げ方向」のスタンスにある先は、利鞘確保重視の先で9割弱、残高増強重視の先でも8割方に上っている。

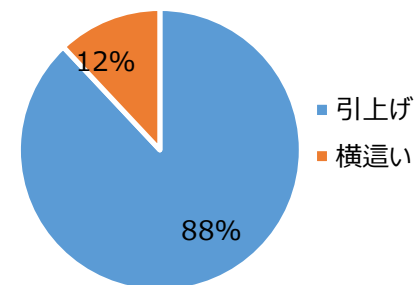


▽ 企業向け貸出の金利設定スタンス（前年同期対比）

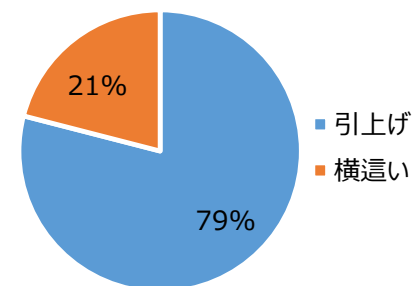


▽ 貸出スタンスと金利設定スタンスの関係

① 利鞘確保重視の先



② 残高増強重視の先





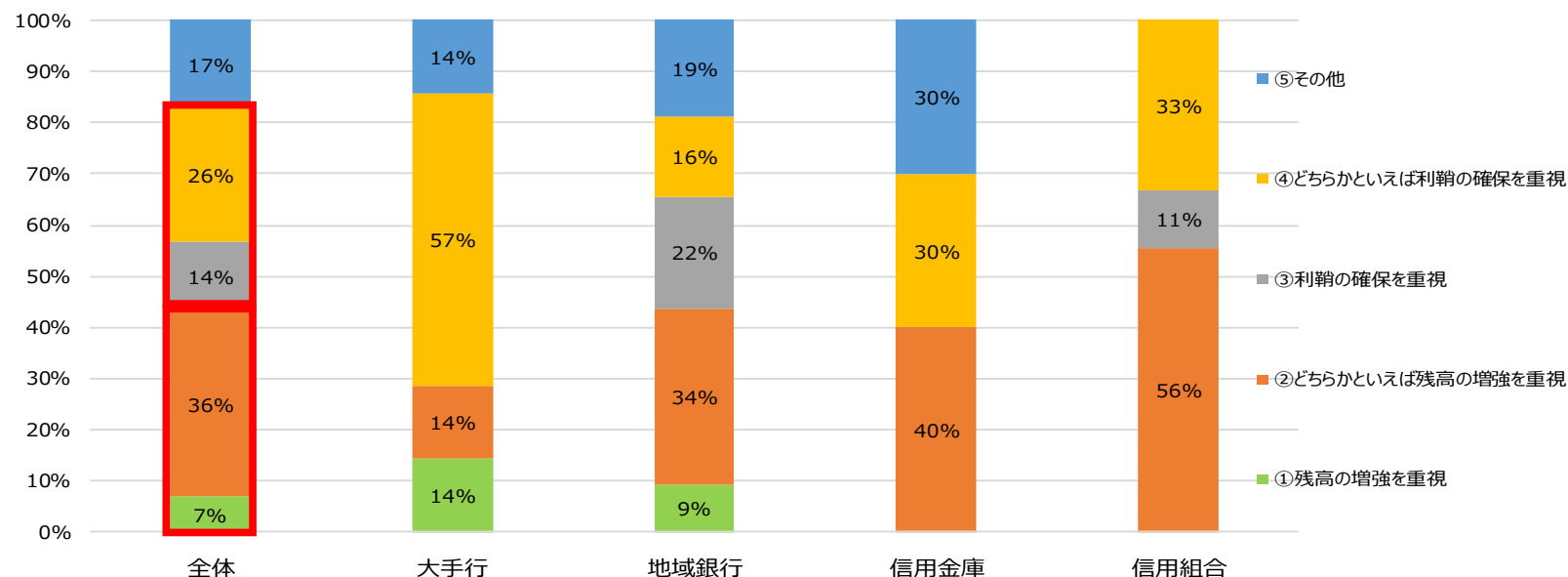
Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

2. 先行きのスタンス

(2) 個人向け貸出

- 2025年度入り後の個人向け貸出スタンスは、足許のスタンス同様、「利鞘の確保」または「どちらかといえば利鞘の確保」を重視する先と、「残高の増強」または「どちらかといえば残高の増強」を重視する先が概ね同数となっており、大きな変化は窺われない。
 - ― 業態別にも、足許のスタンス同様、大手行で利鞘確保重視の先が全体の6割弱を占めている一方、その他の業態では残高増強を重視する先が比較的多い状況に特段の変化はみられない。

▽ 2025年度入り後の個人向け貸出のスタンス





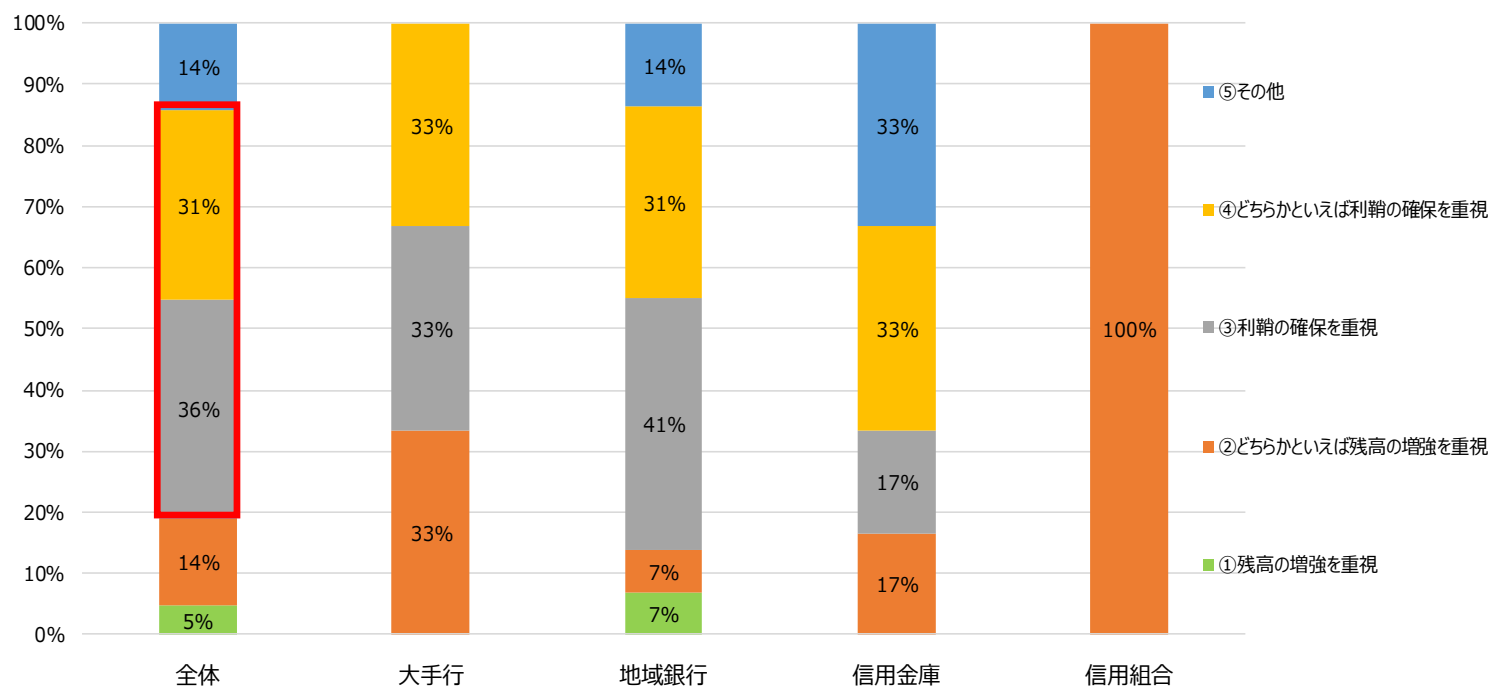
Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

2. 先行きのスタンス

(3) 地公体向け貸出

- 2025年度入り後の地公体向け貸出スタンスについて、7割弱の調査先が「利鞘の確保」または「どちらかといえば利鞘の確保」を重視すると回答しており、全体としては足許のスタンスから大きな変化はみられない。
 - ― ただし、業態別にみると、足許のスタンスでは全先が「利鞘の確保」を重視としていた信用組合では、先行きは全ての先が「どちらかといえば残高の増強」を重視するスタンスに変化しているのが特徴的。

▽ 2025年度入り後の地公体向け貸出のスタンス



以 上